学びの支援とネットワークの充実をめざす『18 項目の提言』の重点化と到達点

◆子どもの貧困対策

『稚内の良さ』を生かした とりくみの特徴

1．学校が『プラットホーム』として機能してきた積み上げがある。
2．市民ぐるみの『子育て運動』の積み上げが土台になっている。
3．子どもの貧困対策本部・プロジェクト会議が『18 項目の提言』をまとめ、市長に提出し、実現を要請している。（平 27 年 12 月 25 日）
4．幼保小中高大連携の『子ども支援ネットワーク』が中学校区単位に機能し始めている。
5．公私を越えて幼保小中高大連携の教育連携会議が発足（平 28,5 月）したことで連携の機運が高まっている。
6．教育連携会議・プロジェクト会議が学校連携・行政連携・地域連携の『要』の役割を果たしている。
7．教育連携会議・プロジェクト会議が「シンポジウム」開催（平 27～）の中心となり、市民世論の喚起と学び合いをリードしている。
8．稚内市の四地域ごとのネットワークを強化し、切れ目のない子どもの貧困対策を可能にする研究に取り組んでいる。（平成 28 年・29 年の二年間）
9．幼保小中高大のつながりを地区ごとに強化するため、あらたにコーディネーターを育成する課題が前進している。『子どもの貧困 STOP 講習会』（平 29.8.17）を開催（64 名）したことで今後の取り組みの力が生まれてきた。
10．貧困の連鎖を断ち切るための奨学支援は不可欠という立場から自治体として可能な奨学資金制度研究に踏み込むことを確認。二年間の研究計画を立ててアウトラインを提言する取り組みが生まれている。

◆子どもの貧困対策プロジェクト

奨学資金制度研究発表

◆【潮見地区】子どもたちを支援することは街作りそのものです。人作り・街づくりを支える奨学金制度の創設をめざし、あらゆる可能性を追求していきます。
◆【北地区】福祉・医療・教育がつながり、街づくりの視点を大切に、子どもの夢を応援する稚内型の奨学金制度の創設を目指します。
◆【東地区】すべての子どもたちの夢を応援する、稚内市民の気持ちを大切にした、稚内の街づくりに位置づけた、夢の奨学金稚内モデルを考えます。
◆【南地区】子どもの貧困を断ち切るためには学びを応援する奨学金が欠かせません。高校の取り組みとも連携し、街作りの視点から奨学金の問題を考えます。

『18 項目の提言』の分野別ランキング

【18 項目の切実度別ランク】

1．教育連携会議の発足と子どもサポート
2．SSW・SC の増員
3．子ども支援ネットワークの充実
4．小中高をつなぐコーディネーター配置
5．稚内型奨学資金制度の創設・財政支援
その他の意見　若者の雇用支援

【中学校区単位の特色ある具体化ランク】

1．教育連携会議の発足と連携の充実
2．SSW・SC の増員
3．子ども支援ネットワークの充実
4．子ども支援・地域づくり講座の開催
5．若者就職支援・雇用促進

※連携を可能にする SSW・SC の増員と子ども支援ネットワークの充実がポイント

【財政を考慮した年次別事業ランク】（例）

・平成 28 年度　稚内市教育連携会議発足
・平成 29 年度　連携コーディネーターの配置
　SSW・SC の増員
・平成 30 年度　稚内型奨学資金制度検討
・平成 31 年度　稚内型奨学資金制度検討
　子ども支援ネットの強化
・平成 32 年度　教育連携の振り返り

※「財政計画については、緊急度、財政規模、多様な分野等から検討し、見積もり合いながら納得し合いすすめていきたい」（教育長見解）

■朱書きは、研究成果が生まれている事項

◆子どもの貧困対策シンポジウム

奨学金問題『参加者の感想』

●子どもの貧困と、奨学金についてすごくタメになる話をきけたと思います。講演の内容や発表のわかりやすさはもちろん、最後の「助けて」と言える人、そして、「耐える強さ」を「変える力」にというフレーズが深く印象に残った講演でした。
●社会に出る前の大学生時にすでにワーキングプアに陥っている学生がいることに少なからずショックを受けました。その一因となっている奨学金制度が、子供を救済するものではなく、子供を追い詰めているものになっていることが残念でなりません。一刻も早く子供のための奨学金制度となるよう、我々自身も意識していく必要があると感じました。
●高校・大学と奨学金を借り、大学卒業と同時に 300 万超の借金を抱えました。今のところ延滞はしていませんが、これからまた何年もこの生活かと思うと不安が非常に大きいです。これから日本を支えていく子供たちが同じ思いを抱えないよう、何ができるのか考えていきたいなと思いました。
●奨学金、おそろしいなーと思いました。教育という夢を食い物にしていますね。こんな形の奨学金ローンはいらないです。人材を育てることは国の為にもなるのに、教育にお金をかけない国はおかしいです。こわれても骨までしゃぶる、回収してるのはおかしいです。こんなものに頼らず、お金をきちんと回しながら地域も人も豊かにする新しい奨学金ができるとうれしいですね。
●大変わかりやすい講演内容で、奨学金問題をすごく身近に感じることができました。もっとたくさんの人たちに聞いていただきたい内容と思いました。稚内型の奨学金はどうなるのでしょうか。
●かつて「意識」が「存在」を規定するのか「存在」が「意識」を規定するのかが差別と人権を考える時に視点が問われていると学生時代の学びを思い出しながらこの国の構造の怖さ、システムの怖さを感じました。変える力にしたいですね。ありがとうございました。
●本当に分かりやすかったです。来年もまたゆっくり話を聞きたいと思います。それを実現させて下さい。お願いです。
●大変分かりやすくためになるお話でした。「耐える強さ」を「変える力」にという言葉に感銘を受けました。
●今の大学の授業料は本当に高いと思います。子どもは親が育てるのがあたりまえですがしかし、「社会が育てる」という視点で考えることが大切と痛感しました。「子は社会の宝」といわれますが、それを制度的に保障する国になって欲しいです。
●奨学金制の問題点が良く分かった。もっともっと教育に国費を！税金を教育に！

『稚内市子どもの貧困対策に関する提言』年次別・地区別研究推進計画（2019・平成３１年度用）

「稚内市子どもの貧困の連鎖を断ち切る１８項目の提言」の基本理念と重点施策

■ 基本理念

①市民ぐるみの連鎖の蓄積で子どもの貧困の連鎖を断ち切る

②教育問題としてとりくむ　（人格性・科学性・総合性・歴史性の特質を生かす）

③貧困問題は複合的・重層的課題を抱えている　（「困った子」ではなく「困っている子」）

④稚内の条件を生かし、教育関係団体・福祉関係団体・医療関係者等が連携してとりくむ

■ 重点施策　中学校区単位の地区別ネットワーク機能を生かし、子ども・若者のサポート体制を強める

①幼保小中高大の一貫体制と連携体制を強める

②個別支援のサポート体制を強める

③子ども支援のネットワーク体制の良さを生かす

④子ども支援・親支援のできるワンストップ型のとり組みを構想する

⑤福祉との連携を一層強める

⑥医療との連携を一層強める

⑦地元企業との連携を強める

⑧稚内の良さを生かした稚内型の関係機関の連携システムをめざす

『１８項目の提言』と検証計画 ー中学校区単位で実現可能になる各チームの研究をー	平成28	平成29	平成30	2019	2020	備　考
■ １．教育連携を軸に子どもの支援を強めましょう						
①教育連携で子どもの学習サポートを強める	△	○	○			小中連携を軸に高大
②SC・SSW などによる相談体制を強める	○	△	○			地区別増員要望切実
③『グングン塾』などの旺盛なとり組みを強める	○	△	○			『無料塾』の稚内版
④ネットワークづくりや地域づくりの研修講座を実施する	×	◎	△			29,8,17(木)実施 60 人
■ ２．幼保小中高のライフステージに応じた子どもの支援に取り組みましょう　（平成 28 年度＋平成 29 年度）						
⑤家庭教育への応援体制を強める	△	○	△			子育てファイル グングン塾
⑥小学校段階からキャリア教育を実施する	△	○	○			医療探検講座
⑦困窮家庭への支援を強める	○	○	○			子ども食堂の研究
⑧コミュニティースクールを生かした包括的支援体制を強める	○	○	○			教育医療福祉の連携
⑨教育連携会議を立ち上げ、連携体制と一貫体制を強める	◎	◎	◎			教育連携会議機能
⑩小中高大をつなぐコーディネーターを配置する	○	◎	△			地域コーディネーター
■ ３．若者の雇用を生み出す行政施策で貧困解消をめざしましょう　（平成 30 年度＋平成 31 年度）						
⑪住居・就労に関する個別支援を強める	△	△	△			就労支援センター
⑫多子世帯の保育料の軽減・中学生までの医療費軽減をすすめる	○	○	○			中学生まで無料
⑬稚内型『小中高大連携あんしん修学資金制度』を実現する	×	×	◎			市長へ再要望
⑭ひとり親家庭への福祉貸し付け金の充実改善を図る	×	×	×			特別研究検討依頼
■ ４．市民参加の調査研究活動、学び合いをすすめましょう						
⑮『子どもの貧困対策市民シンポジウム』を毎年開催する	◎	◎	◎			11,21(火)開催・好評
⑯『子どもの貧困アンケート』を実施する	○	△	◎			アンケート実施結果と合わせて発行予定
⑰『子どもの貧困研究紀要』を毎年発行する	×	◎	◎			
⑱全国交流・全道交流を重視し、自主研修・視察研修を強める	○	○	○			名古屋大学・名寄大・北星学園大・川野氏
『１８項目の提言』の要となる指標（三目標）						
１．子どもたち全員の高校入学・卒業『１００％達成』をめざす	○	△	○			『保幼小中高大』の縦と『四地区ネットワーク』で実践の深化を
２．プロジェクトチームの機能性を高め、各分野の情報連携を強めて毎年度研究・検証する	◎	◎	◎			プロジェクトチームで研究・検証の継続
３．小学校段階からキャリア教育を実施し、地元高校・大学の入学者数を大幅に増やす	○	○ △	◎			小学校段階から高校大学の協力を得てとり組む・医療連携

■解説

平成 31 年度(2019)は、子どもの貧困対策推進 5 周年、稚内市教育連携会議結成 4 年目、『18 項目提言』検証研究の 4 年次、さらに『稚内型奨学金制度』研究最終年の年です。また新たに高校を軸に「稚内キャリアデザイン推進本部」を立ち上げオール稚内でのキャリアデザインを策定する取り組みが生まれています。